

岩手・大船渡の漁船が 西表島パイミ崎沖で発見されました

西表島・パイミ崎



we support!
RQ
災害教育
センター

MONTHLY

「東北に黒龍を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
かめばいん しんぶん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ホランティアに来たよ」という
意味である

SEPTEMBER
11
2015



(産経フォト、八重山毎日新聞ほか)
7月17日午前9時半ごろ、沖縄県・西表島西端の沖合約1キロの海上で、漁船が転覆した状態で漂流しているのを地元漁師が見つけ、第11管区海上保安本部に通報した。調べたところ、東日本大震災の津波で岩手県大船渡市から流された漁船「豊祥丸」(長さ約6メートル、0.6トン)と分かった。
石垣海上保安部が、船体の登録番号から所有者の男性を割り出した。漁船に衝突などによる損傷はなく、船底にはコケが付着していた。男性と協議して漁船の取り扱いを決める。

震災で流された漁船見つかる 石垣海上保安部

石垣海上保安部は17日午前9時35分ごろ、西表島パイミ崎沖で「古い感じのボートが流れている」との通報を受け、巡視艇「あだん」を派遣し調査したところ、東日本大震災で流された漁船「豊祥丸」と判明した。同保安部によると、「豊

祥丸」は岩手県大船渡市の綾里漁協所属の漁船で、長さ約6m、0.6トン。同保安部では、所有者と処理方法について調整している。



▲2015年7月18日 八重山毎日新聞

(写真:石垣海上保安部)



▼予測される漂流ルート
「転覆した船」は、海上部分と海中部分が1:1程度の「標準漂流物」にあたる

7月17日に西表島の白浜港に引き上げられた豊祥丸は、9月10日現在、島内西部地区の一角に保管されています。▲



資料:産経フォト、八重山毎日新聞、環境省(洋上漂流物の漂流予測結果・H24.11.9)